

活 動 報 告

日本語教育部門：日本語・日本事情

(1999年4月～2000年3月)

田村泰男

1. 授業科目一覧

授 業 科 目	開 単 設 位 数	学期別週授業時数			備 考
		前期	後期	通年	
◎ 日 本 語 I A	1	2	2		広島大学外国人留学生 のための授業である。 日本語 I A から日本 語 II F までは通年の授 業ではない。 ◎印の授業は東広島、 霞の両地区で開講。
◎ 日 本 語 I B	1	2	2		
日 本 語 I C	1	2	2		
日 本 語 I D	1	2	2		
◎ 日 本 語 II A	1	2	2		
日 本 語 II B	1	2	2		
日 本 語 II C	1	2	2		
日 本 語 II D	1	2	2		
日 本 語 II E	1	2	2		
日 本 語 II F	1	2	2		
日 本 語 III A	2	2	2		
日 本 語 III B	2	2	2		
日 本 語 III C	2	2	2		
日 本 語 III D	2	2	2		
日 本 語 IV A	2	2	2		
日 本 語 IV B	2	2	2		
日 本 語 IV C	2	2	2		
日 本 語 IV D	2	2	2		
◎ 日 本 語 V A	2	2	2		
日 本 語 V B	2	2	2		
日 本 語 V C	2	2	2		
日 本 語 V D	2	2	2		
日 本 語 V E	2	2	2		
日 本 語 V F	2	2	2		
日 本 語 V G	2	2	2		
日 本 事 情 A	2	2	2		
日 本 事 情 B	2	2	2		
日 本 事 情 C	2	2	2		
日 本 事 情 D	2	2	2		
日 本 事 情 E	2	2	2		
日 本 事 情 F	2	2	2		
日 本 事 情 G	2	2	2		

2. 授業内容

(東広島キャンパス)

レベル 1

授業科目	日本語ⅠA・ⅠB・ⅠC・ⅠD
担当教官	堀田泰司・迫田久美子・渡辺久美・坂田光美
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1. 文字の導入 2. 基本文型の導入 3. 音読練習 4. 口頭及び筆記による応用練習
テキスト	コンパクトジャパニーズ 1

レベル 2 - 1

授業科目	日本語ⅡA・ⅡB・ⅡC
担当教官	石原淳也・坂田光美
目 標	初級クラスで学習した基礎的な語彙・文型・表現の定着をはかるとともに、語彙力を高め、豊かな表現力を身に付けさせる。加えて種々の場面に応じた実用的な日本語能力を習得させる。
内 容	短文を中心に構成され、会話を多く取り入れた教材を用い、場面に応じた適切な表現を学びながら、既習の語彙・文型・表現の応用練習を行う。併せて新出の語彙・文型・表現を口頭練習、書く練習によって学習し、より日本語らしい表現の習得を目指す。
テキスト	コンパクトジャパニーズ 2

レベル 2 - 2

授業科目	日本語ⅡD・ⅡE・ⅡF
担当教官	田村泰男・下村真理子・渡辺久美
目 標	初級クラスで学習した基礎的な語彙・文型・表現の定着をはかるとともに、語彙力を高め、豊かな表現力を身に付けさせる。加えて種々の場面に応じた実用的な日本語能力を習得させる。
内 容	1. 文型練習の積み上げにより文型・語彙の定着をはかる。 2. あいさつなどの慣用的表現を学び、場面や状況にふさわしい表現能力を養う。 3. 短い会話をテープで聞き、内容の要点を把握する練習と質問に答える練習を行う。
テキスト	新日本語の基礎Ⅱ

レベル 3

授業科目	日本語ⅢA・ⅢB・ⅢC
担当教官	石原淳也・坂田光美
目 標	中級レベルの長い文章を読み、それが何を伝えようとしたものであるかを確実に読み取る読解力を身に付け、更にその内容を的確に言語表現できる能力を養うことを目標とする。
内 容	授業は、日本の生活・習慣などを題材としたテキストを用いて行う。日常よく用いる言葉及び表現文型をできるだけたくさん確実に覚え、それらを使った例文を作る練習をする。各課の終了後は、理解の程度を確かめるために、必ず口頭で文章の内容について発表するとともに、各自質問紙に答えてもらう。
テキスト	日本語2ndステップ／日本語中級読解入門

授業科目	日本語ⅢD
担当教官	渡部浩見
目 標	実際の講義やニュースを聞いて理解できるようになるための準備段階として本授業を位置付け、一定の長さがある聴解教材の内容の概要把握ができるような聞き取り能力を身に付けることを目標とする。また、聞いてわかる理解語彙を増やすことも目標とする。
内 容	ランゲージ・ラボ（LL）を利用し、全体授業に加え、個別学習・個別指導を行う。
テキスト	毎日の聞き取り50日 上・下

レベル 4

授業科目	日本語ⅣA・ⅣB
担当教官	田村泰男
目 標	日本語Ⅲまでに学習してきた項目について確実に運用できるようにさせるとともに、日本語の「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能をバランスよく身に付けさせる。
内 容	読解用教材を読むことによって、既習の文型・語彙・表現を整理し、併せて新しい文型・語彙・表現を学習する。その際、口頭練習で定着をはかるとともに、書き言葉に属する言い回し、或いは文型を「書く」作業によって練習し、文章レベルでの理解をはかる。これらの作業の後、教材の内容理解を確認するために練習問題を使って質疑応答を行う。
テキスト	テーマ別 中級から学ぶ日本語／日本語中級読解

授業科目	日本語ⅣC
担当教官	中川正弘
目 標	日本語作文を書くことで、文法や語彙をその選び方、使い方として理解させる。
内 容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 作文例を分析しながら読むことで、テーマ、内容を考えるだけでなく、文法や語彙についての理解を正す。 2. 作文例と同じテーマで自分でも作文を書く中で、いろいろなスタイルの使い分けや、辞書に出てくる類義表現の選び方など、言葉の能動的な運用練習をする。 3. 作文はすべて添削した後返却するので、自分の日本語の弱点を確認し、学習の目標をはっきりさせる。
テキスト	作文例と文法、語彙をまとめたプリントを毎回配布する。

授業科目	日本語ⅣD
担当教官	渡部浩見
目 標	日常会話で交わされる会話を聞き取り、自然な口語で会話する能力を養う。
内 容	ランゲージ・ラボ（LL）を利用し、全体授業に加え、個別学習・個別指導を行う。
テキスト	なめらか日本語会話

レベル5

授業科目	日本語ⅤA
担当教官	深見兼孝
目 標	時事日本語の聴解能力を養い、併せてそれに特有の語彙・表現を学習する。
内 容	<ol style="list-style-type: none"> A. 時事論評を聞き、その内容を理解する練習を行う。後にそれを文字化したものを読み、理解を補足する。さらに重要語句の使い方について練習する。 B. ニュースを聞き、1)その内容を理解する練習を行う。2)スクリプトの完成を行う。
テキスト	市販の中・上級用教材の一部と付属のテープ及び、自主教材。

授業科目	日本語VB
担当教官	中川正弘
目 標	日本語における「表現」の様々な側面を考察することで、内容や文法のレベルにとどまらず、表現行為や解釈行為まで含めた「ことば」とはどんなものであるかを理解する。
内 容	文章練習とその徹底的な分析を柱とする。ほぼ毎週短い作文を提出してもらい、これは当然添削して返却するが、添削では到底表すことができない日本語という言語の問題、誤用の分析、また言葉の「選び」などに現れる日本文化、日本社会の考察を通して、外国人の日本語と日本人の日本語を隔てているものが何であるか検討してゆく。
テキスト	用例分析のプリントを毎回配布する。

授業科目	日本語VC
担当教官	長谷川伸次
目 標	経済・産業用語理解と活用の把握。
内 容	主として新聞・雑誌の産業経済欄・社会欄を取り上げて、その読解力を深めるとともに、取り巻く社会と環境問題を討議しつつ、語義と活用法を習得する。
テキスト	自主教材

授業科目	日本語VD
担当教官	田村泰男
目 標	類義語・慣用句を中心とした語彙や上級文法を習得させることによって日本語の読解力、表現力を高める。
内 容	主として、語彙を中心に授業を行う。 1. 漢字の訓読み、特別な読み方をする漢字 2. 類義語・類意表現 3. 慣用句 4. 接頭辞・接尾辞 5. 新聞の語彙・表現
テキスト	自主教材

授業科目	日本語VE
備 考	本年度は開講しない。

授業科目	日本語VF
担当教官	高永茂
目 標	物語の展開を理解し、登場人物の考えや気持ちを、行動を通して読みとることができるようにする。
内 容	<p>1. 「注文の多い料理店」(宮沢賢治作)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・場面分けをし、物語のあらすじをつかむ。 ・登場人物の考え方や性格を読みとる。 <p>2. 「字のないはがき」(向田邦子作)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物について、それぞれの人物像を読みとる。 ・「父」に対する私の心情の変化について考える。 ・全文を読み、「家族」のあり方について考える。 <p>3. 「運の悪い男」(星新一作)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・物語の展開を把握する ・登場人物の細かな動きとその意図するところを理解する。 <p>以上の他、いろいろな文章を用い、授業を行なう。</p>
テキスト	自主教材

授業科目	日本語VG
備 考	本年度は開講しない。

授業科目	日本事情A
担当教官	浮田三郎
目 標	日本の諺を学ぶことにより(時には世界各国の諺と対照比較して)、日本語的な表現、日本的な考え方、日本の文化・風土などの理解を目指す。
内 容	日本の代表的な諺を、時には世界各国の諺と対照比較しながら、日本語的な表現、日本的な考え方、日本の文化・風土を学習する。各々の諺がもっているテーマやそこで使用されている素材を考える。諺の表現の特徴やおもしろさを考える。簡単なクイズ形式の設問を用いて考えてみる機会を与える。各々の諺について、留学生達の意見、対照比較できるような自国の諺や表現とその考え方を発表してもらい、意見の交換をする。
テキスト	自主教材

授業科目	日本事情B
担当教官	長谷川伸次
目 標	日常生活や社会的慣行の中に息づく日本の伝統文化や社会的風土を観察・認識することで、時事問題へのより深い理解と学習を目指す。
内 容	1. 新聞、雑誌等を梃子として、日本の社会的経済的問題点を討議する。 2. 日本人・日本社会の思考体系や行動様式を討議する。 3. 必要に応じて公共施設や企業訪問を実施する。
テキスト	自主教材

授業科目	日本事情C
担当教官	玉岡賀津雄
目 標	言語処理に関する基本的な特徴を異言語間で比較考察することによって、異文化間のコミュニケーションで起こる多様な現象を理解する。
内 容	本授業は、「異文化間コミュニケーション」と題して、以下のことを学ぶ。 (1)言語処理における音声・書字・統語・意味的要素、(2)単語の形態素構成及び単語自体の様々な特徴による認知処理への影響、(3)文章の統語的分析とその認知処理、(4)意味的な認知、さらに(5)言語を超えた社会・文化・習慣的な知識の言語理解への影響について、日本と他の言語を比較考察することによって、普遍的又は特殊な言語認知処理モデルを模索する。
テキスト	必要な文献を紹介またはプリントして配布する。

授業科目	日本事情D
担当教官	金田智子
目 標	異文化が接触する日本語使用場面を題材に、日本文化や日本語に対する理解を深める。
内 容	主に学生自身が体験した日本語使用場面、あるいは異文化接触場面におけるさまざまな摩擦をとりあげていく。それらを題材に摩擦の原因とその影響を考えながら、日本文化や日本語に対する理解を深める。同時に、異文化への適応と日本語習得との関係にも触れ、摩擦解決の方法を探っていく。
テキスト	プリント教材

授業科目	日本事情E
担当教官	今石正人
目 標	戦後の日本映画のいくつかを観賞することで、広くは日本文化と社会、狭くは家族関係の変遷についての理解を深めさせる。
内 容	小津安二郎の「東京物語」、山田洋次の「家族」、森田芳光の「家族ゲーム」を比較検討する。戦後の歴史、時代背景、監督、主題、家族の描かれ方、観客の反応・評価について説明し、学生の出身国の家族形態との比較や相違点・類似点などをディスカッションする。
テキスト	小津安二郎「東京物語」、山田洋次「家族」、森田芳光「家族ゲーム」ほか
参考文献	佐藤忠夫「映画をどう見るか」講談社新書 1976年、 佐藤忠夫「見ることと見られること」日本評論社 1991年、 川本三郎「今ひとたびの戦後日本映画」岩波書店 1994年、 Donald Richie, Japanese Cinema, Oxford U.P.,1990 Ian Bruma, Behind the Mask, A Meridian Book, 1985 Tadao Sato, Currents in Japanese Cinema, Kodansha, 1982

授業科目	日本事情F
担当教官	高永茂
目 標	ワープロを使い、さまざまな書式にしたがった日本語の文章が作成できるようになること。また、コンピュータを利用し、日本語の電子メールを送れるようになること。
内 容	1. コンピュータ、及び日本語ワープロの基本的な操作方法 2. 日本語入力の方法（ローマ字入力、各種記号） 3. ひらがな、かたかな、漢字を含む文の入力、変換 4. 定型文書（例：案内状、レポート）作成実習 5. 日本語電子メール作成／送付実習
テキスト	適宜プリントを配布する。2HDのフロッピーを用意すること。

授業科目	日本事情G
担当教官	橋本敬司
目 標	日本人でさえ自覚的ではない日本人と日本という文化の形について、歴史的あるいは現代的テキストを、留学生と日本人学生が互いに議論することを通して読み解き、それぞれの日本人と日本を発見してゆく。
内 容	西行、鴨長明、吉田兼好、近松門左衛門、木村敏、丸山圭三郎、養老孟司などの著書に見られる日本人の人間観、世界観、死生観、文学観について、生、死、身体、自然、言葉などのキーワードを通して考察する。履修する日本人学生と留学生がグループを作って、それぞれが選択したテーマに基づいてレジユメを用意して発表し、それをもとに討論する。
テキスト	適宜プリントを配布する。

(霞キャンパス)

レベル 1

授業科目	日本語 I A・I B
担当教官	下村真理子・渡部浩見
目 標	かな及び基本的な漢字の読み方・書き方、初歩的な文法を習得させる。
内 容	1.文字の導入 2.基本文型の導入 3.音読練習
テキスト	コンパクトジャパニーズ 1

レベル 2

授業科目	日本語 II A
担当教官	渡部浩見
目 標	初級クラスで学習した基礎的な語彙・文型・表現の定着をはかるとともに、語彙力を高め、豊かな表現力を身に付けさせる。加えて種々の場面に応じた実用的な日本語能力を習得させる。
内 容	短文を中心に構成され、会話を多く取り入れた教材を用い、場面に応じた適切な表現を学びながら、既習の語彙・文型・表現の応用練習を行う。併せて新出の語彙・文型・表現を口頭練習、書く練習によって学習し、より日本語らしい表現の習得を目指す。
テキスト	コンパクトジャパニーズ 2

レベル 5

授業科目	日本語 V A
担当教官	下村真理子
目 標	慣用的表現や上級文法を習得させることによって日本語の読解力、文章表現力を高めさせる。また、時事日本語の聴解力も養わせる。
内 容	主として新聞の記事から題材をとり、漢字の読み書き、慣用句、文法などの問題点をテキストとしてまとめたものを用いる。授業では、まず読んで理解し、次にそれに対する自分の意見をまとめて発表し、討論へと発展させる。また、ニュースなどを聞くことにより、聴解力を養い、文章表現との違いを理解する。
テキスト	自主教材

日本語研修コース

深見兼孝

【修了者】

第28期生名簿（1999年4月～1999年9月） [17名]

氏名	呼び名	国籍	専門	大学
Rahman, Mohammad Oliur	ラーマン	バングラデシュ	植物分類学	広島大学
Atarian, Maria Fernanda Votta	ナンダ	ブラジル	社会法学	広島大学
Erkin, Ozgur Cem	エルキン	トルコ	生物工学	広島大学
El Ouai, Driss	ドリス	モロッコ	地質学	広島大学
Rakotondraibe, Harinantenaina Iiva Romuald	リヴァ	マダガスカル	有機化学	広島大学
Arif Fadilla	アリフ	インドネシア	造船学	広島大学
Slattery, Melanie	メラニー	コスタリカ	農業工学	広島大学
Miño, Esteban Roberto	エステバン	エクアドル	機械工学	広島大学
Cunita, Andreea Cristina	クリスティーナ	ルーマニア	生物分子科学	広島大学
Abdel-Mohsen, Hala Ahmed	ハラ	エジプト	生物学	広島大学
Sayde, Abdalla Abdalla	アブダラ	エジプト	生物学	広島大学
Vassanadumrongdee, Sujitra	スジトラ	タイ	開発教育学	広島大学
Maonga, Beston Billie	ベストン	マラウイ	開発経済学	広島大学
Bayle, Tamrat	タムラット	エチオピア	情報工学	広島大学
Tin Tin Htoo	ティン・ティン・ト	ミャンマー	機械工学	山口大学
Achmad Munir	ムニル	インドネシア	通信工学	山口大学
Cole, John James	ジョン	カナダ	作曲学	エリザベト音楽大学

第29期生名簿（1999年10月～2000年3月） [25名]

氏 名	呼 び 名	国 籍	専 門	大 学
Hezu, Babofa	バ ボ フ ァ	バプアニューギニア	日本語教育学	広島大学
Meerman, Arthur Dwight	ミ ア マ ン	カナダ	教育制度学	広島大学
Lukin, David Allan	デイビッド	カナダ	障害者教育学	広島大学
Carmona, Marvelisa Laput	マーヴェリサ	フィリピン	生物学	広島大学
Nguyen, Nguyen Tran	ギ エ ン	ヴェトナム	林 学	広島大学
Lim, Hui Ling	リ ム	マレーシア	経 済 学	広島大学
Cho Sint Yin	チ ョ ー	ミャンマー	教育・学校経営学	広島大学
Suriati Suradi	スリヤティ	シンガポール	音楽教育学	広島大学
Mazlinah, Binte Haji Mohamad Noor	マズリナー	シンガポール	美術教育学	広島大学
Saptono Nugrohad	サプトノ	インドネシア	理科教育学	広島大学
Yparraguirre, Leila Salanga	ライラ	フィリピン	教育・学校経営学	広島大学
Pitas, Beverly Ebs	ヴィヴァリー	フィリピン	教育・学校経営学	広島大学
Han, Jong Hee	ハ ン	大韓民国	数学教育学	広島大学
Otieno, Nicholas Amimo	オティエノ	ケニア	理科教育学	広島大学
Mutiga, Nahashon Mwenda	ムティガ	ケニア	コンピューター教育学	広島大学
Santos, Helena Maria Dos	エレナ	ブラジル	英語教育学	広島大学
Guan, Chang Kong	グァン	中 国	生涯教育学	広島大学
Adams, Huw Glyn	グリン	イギリス	東洋医療	山口大学
Newland, Paul	ポール	イギリス	作曲学	エリザベト音楽大学
Nyunt Nyunt Lwin	ニユン	ミャンマー	理科教育学	島根大学
Buachuiy, Bungorn	バンオーン	タイ	理科教育学	島根大学
Kunghae, Suwit	カンヘー	タイ	社会科教育	島根大学
Sung, Nak Hoon	ソン	大韓民国	社会科教育	島根大学
Ebrahim, Maged Samir	マゲッド	エジプト	理科教育学	島根大学
Okazaki, Amalia Isabel	アマリア	アルゼンチン	社会科教育	島根大学

第28期予定表（1999年4月～1999年9月）

期 日	行事／試験等	特別研究指導	備 考
4 / 14 - 4 / 16	4 / 13(火) 11:00オリエンテーション 4 / 14(水) 11:00開講式 (午後) クラスミーティング		4 / 14(水) 11:30ホストファミリー案内 4 / 17(土) 東広島市オリエンテーション バスツアー
4 / 19 - 4 / 23		4 / 23(金)広島市	4 / 23(金) 4:30ホストファミリー対面式
4 / 26 - 4 / 30			4 / 29(木)公休日
5 / 3 - 5 / 7			5 / 3(月)公休日 5 / 4(火)公休日 5 / 5(水)公休日
5 / 10 - 5 / 14			5 / 13(木) 9:00-10:00健康診断(男) 5 / 14(金) 9:00-10:00健康診断(女) インターナショナルティー タイム (東広島キャンパス)
5 / 17 - 5 / 21	5 / 18(火)第1回試験	5 / 21(金)宮島	
5 / 24 - 5 / 28			
5 / 31 - 6 / 4			
6 / 7 - 6 / 11	6 / 10(木) 「専門用語解説」開始		
6 / 14 - 6 / 18			
6 / 21 - 6 / 25	6 / 22(火)第2回試験		
6 / 28 - 7 / 2			
7 / 5 - 7 / 9			
7 / 12 - 7 / 16		7 / 16(金)マツダ	
7 / 19 - 7 / 23	7 / 22(木)第3回試験		7 / 20(火)公休日
7 / 26 - 7 / 30			
8 / 2 - 9 / 3	夏休み		
9 / 6 - 9 / 10	9 / 9(木)第4回試験		
9 / 13 - 9 / 17	9 / 13・14・16(月・火・木)特別講義 9 / 17(金) 13:00成果発表会 15:00終了式		9 / 15(水)公休日

第29期予定表（1999年10月～2000年3月）

期 日	行事／試験等	特別研究指導	備 考
10/12-10/15	10/12(火) オリエンテーション 10/13(水) 13:30開講式 クラスミーティング		10/13(水) 14:00ホストファミリー案内 10/16(土) 東広島市オリエンテーショ ンバスツアー
10/18-10/22		10/22(金)広島市	10/21(木) 15:00健康保険・防犯オリ エンテーシ 10/22(金) 16:30ホストファミリー対面式
10/25-10/29			
11/1-11/5			11/3(水)公休日 11/5(金)創立記念日 11/7(日)学部間ウォークラリー
11/8-11/12		11/12(金)-11/14(日) ビッグジャンボリー	
11/15-11/19	11/18(木)第1回目試験		
11/22-11/26		11/26(金)宮島	11/23(火)公休日
11/29-12/3			
12/6-12/10			
12/13-12/17	「専門用語解説」開始		
12/20-12/23	12/21(火)第2回目試験		12/23(木)公休日
12/24-1/7	冬休み		
1/10-1/14			1/15(土)公休日
1/17-1/21			
1/24-1/28			
1/31-2/4	2/1(火)第3回目試験	2/4(金)マツダ	
2/7-2/11			2/11(金)公休日
2/14-2/18			
2/21-2/25	2/24(木)第4回目試験		
2/28-2/29	特別講義		
3/1	13:00成果発表会 15:00修了式		

講 師 一 覧

第28期 (1999年4月～1999年9月)

専任	浮田三郎	玉岡賀津雄	多和田眞一郎	中川正弘
	深見兼孝			
非常勤	今石正人	茅本百合子	熊野七絵	鈴木雅恵
	橋孝司			

[専門用語解説]

相原玲二 (総合情報処理センター)、岡田光正 (工学部)、久保川淳司 (工学部)、小瀬邦治 (工学部)、竹下 徹 (理学部)、中越信和 (総合科学部)、西野信博 (工学部)、久留智之 (教育学部)、松岡俊二 (国際協力研究科)、松田 治 (生物生産学部)、松田治男 (生物生産学部)、マハラジャン・ケジャブ・ラル (国際協力研究科)、宮川都吉 (工学部)、森川弘道 (理学部)、山口登志子 (工学部)、山崎和男 (医学部)、吉中 信人 (法学部)

第29期 (1999年10月～2000年3月)

専任	浮田三郎	玉岡賀津雄	多和田眞一郎	中川正弘
	深見兼孝			
非常勤	今石正人	茅本百合子	熊野七絵	鈴木雅恵
	橋孝司			

[専門用語解説]

朝倉 淳 (学校教育学部)、池田秀雄 (教育学部)、植田敦三 (学校教育学部)、岡田 樟雄 (学校教育学部)、落合 洋 (教育学部)、小松正昭 (国際協力研究科)、酒井 弘 (教育学部)、谷本忠明 (学校教育学部)、土井利樹 (学校教育学部)、徳永俊彦 (学校教育学部)、長沼 毅 (生物生産学部)、二宮 皓 (教育学部)、林 孝 (学校教育学部)、久留智之 (教育学部)、深澤清治 (学校教育学部)、藤田耕之輔 (生物生産学部)、山岡和子 (医学部)、吉富巧修 (教育学部)、若元澄男 (学校教育学部)

日本語・日本文化研修プログラム

石原 淳也

平成11年4月の橋本助教授の異動に伴い、98年度（第14期）日本語・日本文化研修プログラムの後半から後任の石原がコーディネーターを引き継いだ。

本プログラムは、日本語研修（「日本語・日本事情」で開設されているクラスから選択履修）、日本文化特別講義・見学プログラム、指導教官のもとでの個別指導および課題研究から構成されている。

研修生は研修の終わりに研修成果をレポートにまとめ、指導教官と留学生センターに提出する。留学生センターではそれらのレポートをまとめ、レポート集として刊行している。

平成10年度後期および、平成11年度前期に実施された日本文化特別講義・見学プログラムは、以下の通りである。

平成10年度後期

- 10月9日（水） 開講式・オリエンテーション
- 10月9日（金） 「西条見学」講師 飯田米秋
- 10月23日（金）～25日（日） 江田島ビッグジャンボリー
- 10月30日（金） 特別講義「沖縄の言葉」多和田眞一郎（留学生センター長）
- 11月13日（金） 特別講義「日本の夫婦と親子」小川富之（広島経済大）
- 11月13日（金） インターナショナル・ティータイム
- 11月14日（土） スポーツ大会（ソフトバレーボール）
- 11月20日（金） 宮島見学
- 11月27日（金） 「日本近代文学」相原和邦（教育学部）
- 12月4日（金） 「裁判所・刑務所見学」小川富之（広島経済大）
- 12月11日（金） 「日本の思想」橋本敬司（留学生センター）和太鼓講演及び講習
- 1月8日（金） 「異文化コミュニケーション」金田智子（留学生センター）
- 1月22日（金） マツダ見学
- 1月29日（金） 「日本の文化と生活」八木玲子（法学部）
- 2月5日（金） 「日本の教育」堀田泰司（留学生センター）
- 2月15日（月）～16日（火） スキー実習

平成11年度前期

5月14日（金） インターナショナル・ティータイム

5月27日（木） 「フォーエバー・タンゴ」観賞

6月25日（金） 留学生スピーチコンテスト

6月26日（金）～27日（土） 高宮町ホームステイ

9月10日（金） 修了式

留学生指導部門： 各種オリエンテーションの充実と 平成11年度指導部門活動報告

玉岡 賀津雄
金田 智子

1. はじめに

平成10年度は、従来の対処型の援助活動から、留学生と広島大学の日本人学生（大学院生および研究生を含む）の双方向の交流活動へと発想を転換して、国際交流ボランティア制度を発足させた（詳しくは、玉岡, 1999 a を参照）。これにより、留学生センターに所属する留学生一人一人に対して、無償のボランティア・チューターがつくようになった。この国際交流ボランティアは、平成12年4月1日の新年度を迎えた段階で、登録者が200名を超えている。個々の留学生への配慮は、広島大学の学生との交流を通してかなり確立されてきたのではなかろうか（平成10年度指導部門活動報告は、玉岡, 1999 b を参照）。

平成11年の5月1日現在、広島大学の留学生数は、647名であった。ところが、平成11年11月1日現在では、一気に76名も増え、ついに723名にまで至った。これは、広島県内では平成11年11月1日現在で、広島大学に次いで留学生数が多い広島修道大学の62名、広島経済大学の59名と比べると分かるように、規模は異なるものの1大学分の留学生数に相当する。このように留学生数が増加の一途をたどっていることから、全体の留学生を対象とした、効率の良いオリエンテーションの確立が急務となった。そこで、平成11年度は、問題が起こる前に、それを予測して留学生に伝え、留学生の生活・学習上の問題を予防することを目的として、各種オリエンテーションを充実させ、渡日後の約1カ月半に渡る一連の「オリエンテーションの流れ」を作った。

本稿ではまず、各種のオリエンテーションの流れとその内容について説明し、その後で、平成11年度の前期と後期の指導部門の活動を簡単に報告する。

2. 各種オリエンテーションの充実

平成11年度は、日本語研修生（日本語予備教育）、日本語・日本文化研修プログラムおよび国際交流会館に入居した留学生のための各種オリエンテーションを充実させた。留学生に対するオリエンテーションは、彼等が来日する前から始まっている。まず、留学生を迎えるにあたり、それに対応する国際交流ボランティア・チューター（無償のチューター）

のためのオリエンテーションがある。その後、留学生が来日してからのオリエンテーションが始まる。以下に、その一連の流れを簡単に示す。1と2は、留学生が来日する以前の日本人チューターのためのオリエンテーション、3から8は、来日後の留学生のためのオリエンテーションである。

(1) ボランティア・チューターの募集

広島大学国際交流ボランティア制度が平成10年度に設立された（詳細は、玉岡, 1999）。この国際交流ボランティアから、新しく広島大学へ来る留学生のための無償のボランティア・チューターをEメールで募集する。そして、学部、年齢、性別などを参考にして留学生とのマッチングを行い、チューターをお願いする。

(2) ボランティア・チューターのためのオリエンテーション

広島大学国際交流ボランティアの希望者から選ばれたボランティア・チューターのために、留学生の外国人登録、銀行口座、ガス・電気、電話、各種保険、健康診断、一時帰国、アルバイト（資格外活動）などについて、オリエンテーションを行う。つまり、ボランティア・チューターに、書類作成、生活上の諸注意など留学生が直面する多様な問題を知ってもらうためのオリエンテーションである。これによって、各ボランティア・チューターが留学生の質問に答えられるように準備しておくことができる。なお、留学生も広島大学の大学院生、学部学生、研究生の身分であればボランティア・チューターになれるので、チューターが日本人であるとは限らない。むしろ、留学生にも新しく来る留学生のボランティア・チューターになるように積極的に勧めている。

(3) 渡日時オリエンテーション

JR東広島駅で、国際交流ボランティアのチューターと共に留学生を迎える。その日のうちに外国人登録や健康保険など基本的な申請書類を作成し、国際交流会館周辺の交通機関、病院、警察、市役所、スーパー、レストラン、など、すぐに必要と思われる情報について基本的なオリエンテーションを行う。広島大学に来て初日の経験であるため、第一印象を良くするよう、朗らかな対応を心がけている。その際、広島大学留学生センター発行の『広島大学留学生キャンパスライフ・ガイド』（第2版が、2000年4月に印刷された。）を配布している。この段階では、情報過多になる恐れがあるので、概要の説明をして、各人が暇なときに読むように指導する程度に留めている。キャンパスライフ・ガイドは、これ

から先のオリエンテーションでも活用する。なお、広島大学学生課より、日本人学生を対象とした『学生生活の手引』が発行されているが、これも留学生に利用できる資料である。

(4) 生活オリエンテーション

外国人登録が終わり、必要書類などの準備ができた後に、生活上の留意点を説明するためにオリエンテーションを行う。家賃の支払い、ゴミの出し方、電話の使用、郵便物の受け取り、長期の不在など、さまざまな生活上の留意点を詳細に説明する。日本語研修生全員と一部の日本語・日本文化研修プログラムの留学生は、国際交流会館に入るのので、国際交流会館に住むという条件でのオリエンテーションを国際交流会館の2階で行う。なお、国際交流会館に住む、留学生センター所属以外の留学生も生活オリエンテーションに参加している。

(5) 日本語研修コースのオリエンテーション

日本語研修コースが始まる前に、日本語研修コースのカリキュラム、教科書、日程、テストなどのオリエンテーションを留学生センターの日本語教育部門が行う（詳細は、日本語教育部門の活動報告を参照）。指導部門もこのオリエンテーションに参加して、必要な説明を行う。

(6) 東広島市オリエンテーション・バスツアー

バスを借りて、東広島市のオリエンテーションのためのバスツアーを行う。広島大学の東広島地区のキャンパス全体や各種の施設、市役所、病院、郵便局、図書館、スーパー、西条駅、空港などを回りながら、利用方法などについて説明する。これは、大学およびその周辺の生活圏の環境を体験的に知ってもらうためのオリエンテーションである。

(7) 健康管理オリエンテーション

このオリエンテーションでは、まず健康保険の仕組みについて説明する。留学生が病院にかかった場合、国民健康保険が、治療費の70パーセントを補助し、さらに、日本国際教育協会（AIEJ）の外国人留学生医療補助制度により、留学生負担分の30パーセントの内80パーセントまで補助することができる（詳細は、広島大学留学生センター、2000を参照）。その結果、留学生の負担分が、治療費のわずか6パーセントになることを説明する。その

際、日本国際教育協会が発行している『留学生のための健康のしおり』（日本国際教育協会、1999年）を配布して、説明に利用している。そして、AIEJの補助を受けるための手続きについて説明し、保健管理センターが行う健康診断を受けるように指導する。なお、この健康診断については、留学生センターの教官が英語の通訳として、保健管理センターを援助している。また、追加の検査を受けなくてはならない留学生がいた場合には、まだ来日して日が浅いこともあり、留学生センター所属の学生については、留学生センター教官が病院まで同伴し、通訳などを行っている。さらに、留学生には、東広島市内の病院および英語など外国語の通じる病院の一覧を示している。また、広島大学では、保健管理センターが中心となって、ハラスメント相談体制を確立している。相談の内容や相談先についても、オリエンテーションを通して、留学生に情報を提供している（詳細は、広島大学保健管理センター、1998を参照）。

(8) 消防・防犯オリエンテーション

春と秋の年2回、留学生がある程度生活に慣れてきて、来日後1ヵ月くらい経った時期に、賀茂広域消防署の協力を得て、国際交流会館で消防訓練を行っている。これは、梯子車による7階からの脱出訓練、消火器操作訓練などの実地訓練を含んでいる。また、広島大学留学生センターでは、『防犯を防ぐために (To Prevent Crimes)』（1999）という日本語と英語の対訳のパフレットを作成しており、これを配布して、戸締り、泥棒、ひったくり、自転車泥棒、スリ、性犯罪防止対策などについて説明を行っている。広島県警察本部広報課でも、『県民のまもりー広島警察』を日本語と英語の対訳で出版し、配布して、外国人居住者のために情報を提供している。これらの情報や訓練を通して、留学生に防災・防犯の知識が身につくように努めている。

平成11年度より、以上の8つの流れを確立して、オリエンテーションを行っている。なお、平成12年度からは、以上のオリエンテーションに加えて、全学レベルのオリエンテーションを実施する予定である。オリエンテーションの充実、留学生の「危機管理」において、予防という観点から重要な位置を占める。従って、これらの「オリエンテーションの流れ」を、全体で一つのパッケージとみなして、より一層の充実に努めていかななくてはならない。

3. 前期と後期の指導部門活動状況

広島地域留学生団体育成支援協議会を含む広島地域モデル事業の活動、留学生センター

教官・留学生専門教育教官等連絡会（1999年の11月よりほぼ毎月行われている）および日々の留学生相談は、前期・後期の授業期間と関係なく常時行っている。以上の業務を除けば、指導部門の活動も、前期と後期の2回のサイクルで行われる。従って、以下に平成11年度の前期と後期の活動内容を記す。

3.1 平成11年度前期の活動

3月31日（水）－ボランティア・チューターのためのオリエンテーション

国際交流ボランティア制度の発足により、Eメールによってボランティア・チューターを募集することができるようになった。特に、前期の担当学生は、日本語研修生で、その多くは日本語がまだ不十分なため、英語でコミュニケーションを図ることになる。そのため、英語のできるボランティアが必要である。Eメールで募集したボランティア・チューターに、新渡日留学生のための書類作成、健康保険への加入、一時帰国、授業計画、異文化理解、プライバシーについての認識にいたる詳細なオリエンテーションを2時間に渡って行った。

4月2日（金）、4月5日（月）～4月8日（木）－新渡日留学生の出迎えとオリエンテーション

JR東広島駅まで、新渡日の日本語研修生をボランティア・チューター（以下、チューターとのみ記す）および教官で出迎えた。留学生とチューターを合わせると10名を超えることもあり、その場合は、大学からマイクロバスをチャーターする。少ない場合は、タクシーおよび教官の自家用車を利用する。その際、安全上のことも考慮して、留学生は、タクシーに乗せるようにしている。日本語研修生は、全員が広島大学国際交流会館に住むことになっているので、JR東広島駅から直接国際交流会館に移動して、入居手続きおよび各種の書類作成を行った。そして、その日のうちに、チューターとともに、外国人登録や健康保険など基本的な申請書類の記入を行った。さらに、チューターには、国際交流会館周辺の交通機関、病院、警察、市役所、スーパー、レストランなど、すぐに必要と思われる基本的なオリエンテーションを行った。

4月9日（金）－国際交流会館生活オリエンテーション

本報告の「オリエンテーションの流れ」で説明したように、外国人登録など必要書類の準備が終わってから、家賃の支払い、ゴミの出し方、電話の使用、郵便物の受け取り、長

期の不在など、さまざまな生活面での留意点を詳細に説明した。これは、日本語研修生全員と日本語・日本文化研修プログラムの留学生ばかりでなく、国際交流会館に入居した全員の留学生および学術研究教官のためのオリエンテーションである。このオリエンテーションでは、電話、医療、保険、自家用車の購入など留学生からもいろいろな質問が出された。そのため、質問のために十分な時間を取る必要がある。

4月17日(土)ー東広島市オリエンテーション・バスツアー

東広島市のオリエンテーション・バスツアーは以下のような予定で、前期および後期の2回実施した。国際交流ボランティアの学生が英語と中国語の通訳として参加してくれ、

時間帯 Time Schedule	見学場所 Places to Visit	備考 Note
(午前; A.M.) 10:00~	Leaving the International House 出発 Departure (広島大学国際交流会館前) 広島大学付属農場, 体育館を含む広島大学 東広島キャンパス全域, ダイエー・ハイパー ーマーケット	
	三ツ城古墳 (Mitsujo Tumulus)	*三ツ城古墳にて, 30分 間ほど下車して見学 (Stop at the Mitsujo tumulus for 30 minutes.)
	東広島中央図書館, 西条警察署, JR西条駅, 本永病院, 東広島市役所, 西条中央病院, Yumeタウンいずみ, 井野口病院 など	
12:00~ (午後; P.M.) 13:30~	昼食 Lunch 西条プラザにて	*西条プラザにて, 1時間 30分間ほど昼食および見 学, ショッピング (Lunch at Saijo Plaza for 1 hour and 30 minutes.)
	モスバーガー, ミスター・ドーナツ, ケン タッキー・フライド・チキン (KFC), フレ スタ, Dik (ディック) など	
15:00~	広島国際空港 (Hiroshima International Airport)	*広島国際空港にて1時間 ほど下車してお茶 (Tea or coffee break for 60 minutes at the airport.)
16:00~	お茶タイム Tea-Break	
17:00 終了	サイエンスパーク (HIP) 東広島体育館 Returning to the International House 解散 End of the Trip (広島大学国際交流会館前)	

多言語対応が可能になった。

4月24日（土）－消防訓練

広域賀茂地域消防署の全面的な支援により、毎年春と秋に消防訓練を実施している。詳細は、オリエンテーションの流れに示した通りである。また、消防だけでなく、日本が必ずしも安全な場所ではなく、時には各種の犯罪に遭遇することもあることを留学生に説明している。

5月14日（金）－東広島キャンパスのインターナショナル・ティータイム

4月27日（火）、7月9日（金）－霞キャンパスのインターナショナル・ティータイム

インターナショナル・ティータイムは、留学生センター設立以来、継続して実施されている国際交流活動である。1999年度は、東広島キャンパスで2回、霞キャンパスで4回、実施した。参加費は無料で、学生のみならず学内の関係者、家族も参加できる。また、国際交流ボランティア制度ができたことから、これまで行ってきたインターナショナル・ティータイムに留学生とボランティアによる文化紹介の企画も加えることができた。単に、企画を成功させることのみを目的にするのではなく、そのプロセスで留学生と日本人学生と一緒に企画し、準備して、何かを共に行うことによる国際理解を促進していくことも重要な目的であると考えている。また、1997年5月以来、学生のクラブ活動である広島大学国際交友会（I.A.H.U.）がインターナショナル・ティータイムに参加し、広島大学留学生センターの共催というかたちで、企画や準備を援助してくれている。留学生センターの国際交流活動は、I.A.H.U.の国際交流の経験と組織力にいろいろな面で助けられている。

6月25日（金）－留学生スピーチコンテスト（東広島キャンパス）

広島大学教育学部大講義室で第1回目の広島大学留学生スピーチコンテストを開催した。このコンテストは、企画から運営まですべて国際交流ボランティアが行った。4月上旬に企画をし、20名余りのスタッフで、宣伝などの広報活動、学外の諸機関との交渉、スピーチコンテストの進行と審査の3つの係に分かれて活動した。コンテストの出場者も24名の応募があり、原稿審査による1次審査を行った。最終的には、10名の出場者となった。当日は、あいにくの悪天候にも拘わらず、学内外から多くの方々が参加してくださった。新聞社およびテレビ局からの取材陣も訪れ、本格的なコンテストとなった。第1回スピー

チコンテストの結果は以下のようなものであった。

- 内容の部 優秀賞 ノ ユジン (留学生センター、韓国)
- 表現の部 優秀賞 尹 秀香 (教育学部、中国)
- なごみの部 優秀賞 ウジャール パワール (歯学研究科、バングラディシュ)
- 感動の部 優秀賞 阮 文雅 (総合科学部、台湾)
- 詠嘆の部 優秀賞 コトワ タチアナ (留学生センター、ロシア)

また、スポンサーとして、出版社、地域の企業、レストランおよび商店の方々にご協力いただいた。その意味で、地域の協力に基づいた画期的なスピーチコンテストとなったのではなかろうか。

3.2 平成11年度後期の活動

前期と同様、後期も新渡日の留学生に対する一連のオリエンテーションを実施した。それに加えて、後期は、さまざまな大学や地域の行事が入り、多彩な活動を展開することができた。以下に、その主な活動を紹介する。

- 9月29日 (水) - ボランティア・チューターのためのオリエンテーション
- 10月5日 (月) ~ 10月8日 (金) - 新渡日留学生の出迎えとオリエンテーション
- 10月9日 (土) - 国際交流会館生活オリエンテーション
- 10月16日 (土) - 東広島市オリエンテーション・バスツアー
- 10月28日 (木) - 健康管理オリエンテーション
- 10月30日 (土) - 消防訓練
- 11月15日 (月) ~ 11月16日 (火) - 留学生のための健康診断

前期と同様に、オリエンテーションの流れとして、以上のことを実施した。特に、後期からは、健康管理のためのオリエンテーションを別途に設けて、国民健康保険および日本国際教育協会の協会医療費補助制度への加入を全員に勧めた。また、東広島市にある主な病院および外国語が通じる病院についての一覧表を配布して、情報提供の徹底を計った。さらに、健康診断に必要な書類の記入を英語で説明し、保険証といっしょに持っているように指導した。

10月29日 (金)、2月22日 (火) - 霞のインターナショナル・ティータイム

前期と同様に、広島市にある霞キャンパスで、国際交流を目的としたインターナショナル・ティータイムが行われた。この会も恒例となり、多くの方々の支援のもとで、活発に交流が行われている。

11月6日（土）－留学生懇親会

11月7日（日）－キャンパスウォークラリー

留学生懇親会は、これまで、広島大学に在籍している留学生の相互交流を図ることを目的として、毎年広島大学学長が主催し、広島市内のホテルで開催してきた。しかし、平成11年度は、広島大学創立50周年の企画として、会場を西条に移して開催された。今年の懇親会には、20人の国際交流ボランティアがスタッフとして集まり、食事の場を盛り上げるアトラクションを指揮する「アトラクション係」、パーティーへの参加者全員を対象としたアトラクションを指揮する「ゲーム・歌係」、そして全体の仕事を把握してサポートをする「統括」という3つの係に分かれて留学生懇親会の開催に取り組んだ。広い西体育館も、前日行われた記念式典に備えて見違えるほどきれいに変貌していた。「アトラクションの部」の司会は国際交流ボランティアの日本人スタッフの広瀬茜さんと留学生スタッフのアイヴァン・ウォーカーさんが行った。シンガポールの伝統舞踊「CIMO・CIMOダンス」、日本人スタッフによるヴィオラ演奏、HUSA（広島大学短期交換留学プログラム）の留学生によるギター演奏と歌、中国の伝統楽器「胡弓」の演奏、そして、アトラクションの最大の目玉である世界の民俗衣装のファッションショーなど、さまざまな企画が披露された。パーティーの最後は参加者全員による「We Are the World」の大合唱で締めくくった。大盛況であった。また、翌日も創立50周年行事の一環である「キャンパスウォークラリー」の中で、留学生による自国の文化紹介が留学生センターで行われ、広島大学の学生ばかりでなく、多くの地域の方々に、文化紹介を行った。

11月12日（金）～11月14日（日）－ビッグジャンボリー

平成10年度と同様に、平成11年度も「ビッグ・ジャンボリー '99」と題して広島市青少年センターおよび江田島「青年の家」の共催による、日本人と留学生の交流合宿を2泊3日で江田島「青年の家」で行った。広島大学留学生センターからは、42名の留学生が参加した。餅つき大会、スポーツ大会、野外料理、討論会など、2日間に渡りいろいろな活動を留学生と一般の日本人参加者とで行った。広島大学以外の多様な人達との出会いがあり、留学生の日本文化理解に大きく貢献した。

2000年1月12日（土）－留学生センター主催のスポーツ大会

留学生センターでは、最低1年に1度は、スポーツ大会を実施している。平成11年度は、冬に1度、国際交流ボランティアが企画、準備、実施した。たまたま、この冬一番の寒気が南下した寒い日であったが、午前10時から広島大学東体育館で、留学生センター長杯ソフトバレーボール大会を開催した。参加チームは10チーム（6人で1チーム）、応援も合わせると100人近い参加者であった。ソフトバレーボールとは、ソフトボールでもバレーボールでもなく、ソフトなボールで競技するバレーボールのことである。開会式、多和田センター長挨拶、ソフトバレーボールのルール説明、準備体操の順で大会に入った。なごやかな雰囲気では試合はつぎつぎと進行し、さすがに決勝戦ともなると技術、気合い、意気込みに違いが感じられた。優勝したのは、「ジャイアントカップ」チームで、準優勝は「T」チーム、第3位が「金龍」チームであった。

3月22日（水）－国際交流ボランティアセミナー

午後1時より、教育学部C215において、留学生センターの国際交流ボランティアに登録している学生、これから登録を考えている学生、国際交流活動に興味のある学生を対象として、「第3回国際交流ボランティアセミナー」を開催した。山口大学人文学部の林伸一教授に、「国際交流ボランティアのピリーフー論理療法的な考え方」という題名で講演をしていただいた。その後、広島大学国際交流ボランティアで活躍中の学生によるボランティア活動の報告が行われた。

4. おわりに

平成11年度は、オリエンテーションを1カ月半に渡る全体的な流れとして捉えることにより、情報が順序良く留学生に提供できるようになった。例えば、まず国民健康保険の加入があって、その後の健康管理オリエンテーション、日本国際教育協会（AIEJ）の外国人留学生医療補助制度の紹介、そして保健管理センターの健康診断、防犯・消防オリエンテーションへという流れが確立され、情報に、順序性ができた。この「オリエンテーションの流れ」を確立したことは、平成10年度に制度化された国際交流ボランティアとともに、今後、留学生のさまざまな問題の予防的役割を果たすものと期待している。

引用文献

広島県警察本部広報課（未記入）. 県民のまもりー広島の警察. 広島: 広島県警察本部広報課.

広島大学保健管理センター（1998）. 健康安全シリーズ33ーセクシュアル・ハラスメントと被害者の心理. 東広島: 広島大学保健管理センター.

広島大学学生部（2000）. 学生生活の手引. 東広島: 広島大学学生部.

広島大学留学生センター（1999）. 犯罪を防ぐために (*To Prevent Crimes*). 東広島: 広島大学留学生センター.

広島大学留学生センター（2000）. 広島大学留学生キャンパスライフ・ガイド. 東広島: 広島大学留学生センター.

日本国際教育協会（1999, 第2刷）. 留学生のための健康のしおり. 東京: 日本国際教育協会事業部学生生活課保健係.

玉岡賀津雄（1999 a）. 国際交流ボランティア制度の導入による留学生の指導・助言活動の新しい展開. 1998年度広島大学留学生センター講演・討論会報告書「二十一世紀の留学生教育に向けて」(pp. 29-37) 東広島: 広島大学留学生センター.

玉岡賀津雄（1999 b）. 留学生指導部門: 「対処」型の支援活動から「予防」型の交流活動への転換. 広島大学留学生教育, 3, 112-121.

教育交流部門・広島大学短期交換留学 (HUSA) プログラム

堀 田 泰 司

広島大学短期交換留学プログラムは、短期留学推進制度の一環として、特に日米文化教育交流会議（カルコン）においてジュニア・イヤー・アブロード・プログラムによる留学生の受け入れを積極的に推進するよう勧告されていることもあり、アメリカ合衆国を主たる対象国としながらカナダ、オーストラリア、マレーシア、その他ヨーロッパ諸国の大学（短期学生交流協定校）に在籍する学部学生で、本学に一学期若しくは一学年度の短期間留学を希望する者を対象とするもので、特別に「英語による授業科目」を開設することによって、本学で教育を受ける機会を提供し、もって学生交流を活性化させ、本学の一層の国際化に資することを目的とするものである。そのために特に本学では、総合科学と言う観点から特色ある専門的科目や日本・アジア理解を推進する専門的科目を提供し、将来日本やアジアの事情に通じた人材の育成に貢献するとともに、本学の学生の国際感覚の養成と海外留学を活性化することが出来るようなプログラムを提供する。

HUSA プログラムは、その実施委員会によって統轄されており、委員会は、合計20名の各学部代表委員並びにその他委員により構成されている。但し、実務的な管理運営に関しては、留学生センターの教育交流部門並びに留学生課がその主たる業務を担っている。また、受け入れ学生に対する授業科目は、各学部が独自に開講している。

I. 受け入れプログラムの概要

- ① 受け入れ期間： 一学期又は、一学年
- ② 募集人員： 50名
- ③ 募集方法： 学生交流協定を締結している（締結する）各国の大学に対し募集要項を配布し、公募する。
- ④ 応募資格：
 - (1) アメリカ合衆国を主としたアジア・太平洋地域の大学の学部学生であること
 - (2) 本学との間に学生交流協定を締結している大学の学生または学生交流について双方が合意した書簡がある大学の学生
 - (3) 原則として自国の大学の正規課程3年次の学部学生
 - (4) 学業成績が優秀で日本留学に熱意を持つ者

(5) 非英語圏から応募する学生にあっては英語による授業を履修できるのに必要な英語力を持つ者

⑤ 選考方法：別途設置する選考委員会において書類選考する。

⑥ 学生の身分と受け入れ方法：学生は、留学生センターで総括しながら、それぞれ専門に応じて本学の指導教官を定め、各学部で「特別聴講学生」（広島大学学生交流規程）として受け入れる。

⑦ 授業料等の不徴収：交流協定に基づく、特別聴講学生として受け入れるので、授業料等を徴収しない。（なお授業料については、協定の中で「相互不徴収」について合意する必要がある）

⑧ カリキュラム：99年度に開設された授業科目は、3つの形態から構成されている。「特設科目」は、HUSAプログラムの学生のために特別に開設された英語による授業であり、「常設科目」は、すでに総合科学部で開設されていたものに、HUSAプログラムの学生が登録した場合、英語を交えた授業にするという条件のついた授業であり、日本人学生と共に履修するものである。第3に「日本語関係科目」は主に教育学部が開設している日本語・日本事情の科目である。また、授業科目はそれぞれの学部が開設しているものであり、その統轄は各学部で行われている。以下が99年度に開設された授業科目一覧表である。

1999年度（99年10月～2000年7月）授業科目一覧

1. 特設科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
アジアの哲学と宗教	2単位	秋学期	文学部
国際関係／国際法概論	2単位	秋学期	法学部
海洋生物学概論	2単位	秋学期	生物生産学部
日本の農業、農学研究	2単位	秋学期	生物生産学部
日本の経済	2単位	秋学期	経済学部
日本の財政システム	2単位	秋学期	経済学部
日本の総合商社	2単位	秋学期	総合科学部
地理学演習	2単位	秋学期	学校教育学部

国際理解のための教材開発	2 単位	秋学期	学校教育学部
日本の音とトーンシステム	2 単位	秋学期	学校教育学部
日本のスポーツと文化	3 単位	秋学期	教育学部
日本の文化と教育	2 単位	秋学期	教育学部
比較教育学	3 単位	秋学期	教育学部
カリキュラム開発論	2 単位	秋学期	教育学部
材料科学概論	2 単位	秋・春学期	理学部
特別課題研究	4 単位	秋・春学期	
応用化学と生物工学概論	2 単位	春学期	工学部
日本の製造産業におけるR&D	2 単位	春学期	工学部
生命科学概論	2 単位	春学期	理学部
野外学習B	2 単位	春学期	理学部
野外学習B	2 単位	春学期	理学部
公共財政システム	2 単位	春学期	経済学部
仏教学	2 単位	春学期	文学部
開発教育論	2 単位	春学期	教育学部
カリキュラム開発論	2 単位	春学期	教育学部
日本の家庭生活	2 単位	春学期	教育学部
応用微生物学	2 単位	秋学期	生物生産学部
平和と人権	2 単位	春学期	HUSAプログラム実施委員会

2. 常設科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
現代数学の課題	2 単位	秋学期	理学部
地球科学の実習III	2 単位	秋学期	学校教育学部
生物学実習III	2 単位	秋学期	学校教育学部
英語と日本語の文化的比較研究	2 単位	秋学期	学校教育学部
日本の伝統音楽	2 単位	秋学期	教育学部
計算機インターフェース論	2 単位	秋学期	総合科学部
児童文学論演習	2 単位	秋学期	総合科学部
女性学特別演習	3 単位	秋学期	総合科学部
現代演劇映画論	2 単位	秋学期	総合科学部
環境化学	2 単位	秋学期	総合科学部
現代社会学演習	2 単位	秋学期	総合科学部

幾何学	2 単位	春学期	学校教育学部
初等理科教育II	2 単位	春学期	学校教育学部
固形状における物理	2 単位	春学期	学校教育学部
コミュニケーション概論	2 単位	春学期	学校教育学部
木工細工III	2 単位	春学期	学校教育学部
環境科学野外実習	2 単位	春学期	総合科学部
量子力学演習	2 単位	春学期	総合科学部
生体防御学	2 単位	春学期	総合科学部
現代詩論特別演習	3 単位	春学期	総合科学部
言語応用論演習	2 単位	春学期	総合科学部
言語思想論特別講義	3 単位	春学期	総合科学部
現代演劇・映画論演習	2 単位	春学期	総合科学部
現代法学演習I	2 単位	春学期	総合科学部

3. 日本語関係科目

授業科目名	単位数	開講学期	備考
日本語・日本事情A	2 単位	春学期	総合科学部
日本語・日本事情B	2 単位	秋学期	総合科学部
日本語レベル IA	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IB	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IC	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル ID	2 単位	秋学期	留学生センター
日本語レベル IIA	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IIB	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IIC	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IID	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IIE	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IIF	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IIIA	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IIIB	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IIIC	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IVA	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IVB	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル IVC	2 単位	秋・春学期	留学生センター

日本語レベル VA	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル VB	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル VC	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル VD	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル VE	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル VF	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本語レベル VG	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本事情 A	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本事情 B	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本事情 C	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本事情 D	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本事情 E	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本事情 F	2 単位	秋・春学期	留学生センター
日本事情 G	2 単位	秋・春学期	留学生センター

- ⑨ 受け入れ体制の整備：(1)学生宿舎（日本人・留学生混住型）を用意するとともに、ホームステイ受け入れ家庭との交流も促進する。(2)日本人学生チューターを事前に配置し、受け入れ開始と同時に留学生を支援する。(3)入国時身元保証人としては、各指導教官に依頼しないで、機関保証（広島大学）とする。

II. 1999年度HUSAプログラム受け入れ状況

99年度は、プログラムが更に発展し、カナダ、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、中国、ロシア、スウェーデン、オランダ、イギリス、ドイツの13大学（前年度8大学）から計32名（前年度21名）の留学生を受け入れた。期間は、殆どの学生が1年間の滞在を希望しており、男女別で見ると男子学生14名、女子学生18名であった。

派遣国	大学名	期間	人数（男：女）
カナダ	カルガリー大学	1年	3名（1：2）
アメリカ	フロリダ州立大学	1年	2名（1：1）
	メリーランド大学	1年	1名（0：1）
	ミネソタ大学	1年	2名（1：1）
		半年	1名（0：1）
オーストラリア	ニューイングランド大学	1年	5名（3：2）

ニュージーランド	オークランド大学	1年	2名 (0:2)
マレーシア	マラヤ大学	1年	2名 (0:2)
中国	大連理工大学	1年	2名 (2:0)
ロシア	トムスク工科大学	1年	2名 (2:0)
スウェーデン	リンシェーピング大学	1年	2名 (2:0)
オランダ	アムステルダム大学	1年	3名 (2:1)
イギリス	リーズメトロポリタン大学	1年	3名 (0:3)
ドイツ	チュービンゲン大学	1年	2名 (0:2)

合計			32名 (14:18)
----	--	--	-------------

所属学部別

所属学部	人数 (男:女)
総合科学部	8名 (0:8)
文学部	2名 (0:2)
教育学部	9名 (4:5)
学校教育学部	3名 (0:3)
経済学部	2名 (2:0)
法学部	2名 (2:0)
理学部	2名 (2:0)
工学部	4名 (4:0)
合計	32名 (14:18)

III. 1999年度HUSAプログラム受け入れ活動

- ① 選考：1999年度募集要項は、昨年1～2月中に派遣大学へ配布され、3～4月に各大学から参加希望者が推薦された。そして、5月には、本学の選考委員会によって正式決定された。
- ② 渡日前の情報の提供：渡日前のオリエンテーションを兼ねて広島大学及び留学生生活に関する情報を網羅した英語版の「短期交換留学生用手引き」を各学生に送付した。この手引きは、前年度の短期交換留学生によって作成されたものである。また、学生の個人的な質問等には、電子メールとファックスを活用し、個々のケ

ースに対応した。

- ③ チューターオリエンテーション：日本人学生チューターに対し、今年度は2回の説明会を行った。第1回目は、チューターとしての全般的な支援活動の内容について説明し、第2回目は、渡日後1週間の事務手続き並びに寮へ入居するまでの具体的な支援活動についてオリエンテーションを行った。
- ④ 見学研修：留学生センターが実施している見学研修に参加する形で短期留学生にも宮島や企業訪問等を行っている。その他にも短期プログラム用特設科目の指導教官が授業の一貫として独自に様々な見学旅行を実施している。
- ⑤ 授業科目の開設状況：短期プログラム用の開設科目数は、毎年、全学から開講され、今年度も83もの科目が短期留学生の為に開かれた。
- ⑥ 履修状況：今年度の秋学期の履修状況は、過去3年の状況と概ね同様で全員が10～12単位、授業科目数にして、6～9教科授業を履修している。多くの学生は自分の専門分野以外の教科にも積極的に参加している。特に、日本語の履修の比率の多さは、例年通り、顕著に現われている。
- ⑦ 文化交流支援活動：今年度も一昨年から参加している広島市が企画する「ビッグジャンボリー」国際交流プログラムや2年目を迎える口和町ホームステイプログラムへの参加、東広島ホストファミリークラブとの交流会、クラブ活動への参加の支援等を行って来た。また、当留学生センターの指導部門による国際交流ボランティア制度を利用し、日本人学生の会話パートナーを短期留学生に紹介した。会話パートナーとの交流は、留学生の日本人学生との交友関係を著しく充実させ、過去2年間の短期留学生がよく口にした「疎外観」という言葉は今年度の留学生からは、ほとんど聞こえて来なくなった。こうした日本人との交流の場をより多く与えたことは、留学生の精神面での安定を作り出しただけでなく、プログラム全体の内容改善に大きく寄与したと考える。

IV. 1999、2000年度HUSA留学生派遣計画

本校の短期留学生派遣は、1999年度までに既に3回実施されており、また、1999年度派

遺留学生の選考も既に終えている。例年、12月24日に応募者の選考試験を行い、翌年の1～2月中には実施委員会で選考、3～4月に受け入れ大学へ推薦という日程で選考・推薦を行っている。以下は、派遣学生の募集に関する資料の一部を抜粋したものである。

広島大学短期交換留学（HUSA）プログラム 派遣学生の募集について

1 制度の趣旨：

短期交換留学プログラムは、学部生・大学院生が短期学生交流協定等に基づいて母国の大学に在籍しつつ、派遣先の大学において学習、異文化体験、語学の実地習得等を目的として、概ね1学年以内の1学期又は、複数学期教育を受けて単位を取得し、研究指導を受ける制度で、平成8度後期から、アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、マレーシア、中国、ロシア、ドイツ、オランダ、スウェーデン、イギリスの大学から主として学部学生を短期交換留学生として招致し、本学の学部学生を各国各協定大学に派遣するという相互交流事業である。この交流事業は派遣先大学において授業料不徴収及び単位互換認定の制度を内容としており平成12年度の派遣学生を別紙の通り募集します。

2 出願書類：

- ①申請書
- ②留学計画書
- ③TOEFL成績表（530点以上が望ましい。）
- ④学業成績証明書

3 出願書類提出締め切り：平成11年11月25日（木）

4 選考：

応募条件を満たしている者に対し、留学計画、TOEFL成績、学業成績及び面接（口述）試験の結果に基づき選考する。第二希望大学まで選考の対象とする。

5 面接（口述）試験日：平成11年12月24日（金）

6 決定：平成12年2月ごろ協定校へ推薦し、最終決定は協定校の決定によるものとする。

V. HUSA留学生派遣事業の実績

1999年度の短期交換留学生派遣に関しては、既に47名の応募者の内24名を推薦し、アメリカ、カナダ、マレーシア、オーストラリア、スウェーデン、イギリス、オランダ、ドイツの10大学へ派遣した。また、2000年度派遣留学生に関しては、32名が応募し、内15名は推薦が決定している。また、ニューイングランド大学に関しては、該当者がいなかったため、今年の7月に2次募集をし、10月に選考する予定である。

VI. HUSA留学生派遣事業の活動状況

本学の学生に海外留学の機会を増やすことが、広島大学の短期交換留学プログラムの重要な任務の一つであることから、1999年度にもいくつかの活動を行った。第1の活動は、海外留学に際し必要な現地校の事情を網羅したガイドブックの作成／再編集である。これは、99年度に協定校から派遣されてきた留学生が、母校に関する知識と経験を基に作成したものである。今年度は、アムステルダム大学とチュービンゲン大学のパンフレット作成を行った。第2の活動は、派遣前のオリエンテーションの開催で、毎年、留学に関する一般的な情報と共に、協定校から来ている留学生との交流の場を提供している。また、広島大学と協定校の学生交流はその後も続き、現在は、協定校においても様々な交流活動が行われている。最後に、海外留学の機会をより多くの学生に認識してもらうため、99年の5、6、10月の3回に渡り短期交換留学プログラムの説明会を開催した。こうした説明会は今年度で3年目を迎え、毎年約200名程度の学生にプログラムに関するガイダンスを行って来た。今後ともより多くの説明会やその他の広報活動を続け、一人でも多くの日本人学生を派遣できることを期待している。

VII. その他の活動

7月 全米大学協会の奨励するアジア研究プログラム設立にむけて8大学から23名の教授が来校し、学長と会見、短期プログラム担当教官との交流を深めた。(資料1参照)

ニューイングランド大学短期交換留学プログラムコーディネータ来校。

9月 短期プログラム担当教官並びに実施委員会委員長の共同研究「日本人学生のアジア留学に対する興味お呼び期待に関する調査研究」の報告書が出版された。(資料2参照)

国立大学協会と全米大学協会の企画による日米イニシアティブプロジェクトに牟田副学長、堀田助教授が参加し、アメリカの新協定校4校を訪問。(資料3参照)

ニューイングランド大学アジア研究科長の来校

10月 アラバマ大学短期交換留学プログラムコーディネータ来校

11月 ニューイングランド大学総長来校

3月 原田学長、羽田教授、金田講師がオーストラリアの協定校であるニューイングランド大学と新協定校のラ・トローベ大学を訪問し、ラ・トローベ大学では、学生交流協定書に調印した。(資料4参照)

3月～ ランドルフメーコン大学 (米国) へ協定書が送付される。米国ハワイ大学、アラバマ大学ならびに韓国の釜山大学、慶北大学との協定案の各委員会での承認が進められる。これらの協定が締結されると、2000年10月には、19大学 (14ヶ国) から、42名以上の学生が短期プログラムに参加する予定である。

資料1

米国大学協会の第2回日本訪問プログラムの概要

企画：米国大学協会

代表：ジェーン・スパールディング 女史 (Ms. Jane Spalding)

研修リーダー： キャメロン・ハースト (Cameron Hurst) 先生、
ペンシルベニア大学教授

参加者：23名 (8大学)、1名不参加

参加大学：

ガステバス・アドルフアス大学 (Gustavus Adolphus College)、ミネソタ州
リンカーン大学 (Lincoln University)、ペンシルバニア州
バルーク大学 (Baruch College)、ニューヨーク州
デビッドソン大学 (Davidson College)、ノースキャロライナ州
スワースモア大学 (Swarthmore College)、ペンシルバニア州
ウイッチタ州立大学 (Wichita State University)、カンサス州

カソリック大学 (Catholic University)、ワシントンDC
マドンナ大学 (Madonna University)、ミシガン州

*参加者は、各大学の3つの異なった学部（ただし、全て人文社会科学系の学部）から1名づつ選出され、それぞれの大学の3人が代表者チームとして、今回のプログラムに参加している。また、この8校は、独創的な日本研究プログラムの開設案を米国大学協会に提出し、厳選な選考の下に、今回の「日本訪問」プログラムの参加権を獲得した大学である。更に、今回の8校は、州立、私立の大小様々な大学を代表しており、米国の形態の異なった大学全体を代表するグループと言える。

目的：この「日本訪問」プログラムは、そうした8大学が計画している日本研究プログラムを設立する上で必要な情報収集と教官自身が日本滞在の経験を持ち日本の文化に慣れ親しむことを目的としている。

広島大学訪問の目的：日本の高等教育の特徴とその現状を広島大学の代表者の方々、教官、学生との交流を通して学ぶことを目的としている。

資料2

「日本人学生のアジア留学に対する興味お呼び期待に関する調査研究」 調査結果の要約

本調査研究報告書は平成10年の5、6月に広島大学で行われたアジア留学に関する意識調査を下に編集されたものである。以下が広島大学における有効回答者の答えを統計的にまとめた結果、明確になったいくつかの重要項目である。

アジア留学への意識

- 1 回答した日本人学生は、アジアにある程度、興味はあるが、留学を考える学生は、あまり多くはない。
- 2 アジア留学に比較的興味のある回答者は、文系の女子学生であるのに対し、一番興味を示さなかった回答者は、理系の男子学生であった。
- 3 アジア留学を希望する主たる理由は、現地での文化交流と言語、文化、歴史の学習である。
- 4 アジア留学を希望しない主たる理由としては、受け入れ先やその国の事情に関する情

報不足、現地での治安に関する懸念等があげられる。

アジア留学の基本的な条件

- 1 派遣先としては、中国が最も人気が高く、次いでシンガポール、タイ、韓国、また、インド、マレーシア、インドネシア、ベトナムへの留学希望者も比較的多い。
- 2 留学期間は、3ヶ月が多く、次いで6ヶ月、1年が続いており、回答者が比較的短い、短期集中型留学を希望しているのが分かる。
- 3 回答者の多くは、アジア留学における単位互換は、必要と考えている。
- 4 回答者の多くは、留学前に母校での現地語の語学研修を強く望んでいる。
- 5 今回の調査で留学前に必要な情報として提示された項目は、全て強く要望されており、留学に関わる全般的な情報の提供が強く望まれていることが分かる。
- 6 留学先の受入態勢として強く要望されている条件としては、「留学先での窓口がある」、「奨学金が受けられる」、「現地語教育の科目が履修できる」、そして、「学生寮が確保されている」等が上げられる。

以上が、今回のアジア留学に関するアンケート調査に見られる全体的な傾向である。なお、今回の調査の分析は、単に度数分布の分析に止まっており、まだ、それぞれの因子間における相関関係等の分析を行っていないため、今後より具体的な統計的分析が必要である。

資料3

日米イニシアティブプログラム米国新協定校訪問日程

9月6日（月）	関西空港発
6日（月）	ワシントンDC着
7日（火）	AAC&U
8日（水）	AAC&U（午前）、アシュランドへ移動
9日（木）	ランドルフ・メーコン大学（バージニア州）訪問
10日（金）	ツスカルーサへ移動
11日（土）	アラバマ大学（アラバマ州）訪問
12日（日）	ピッツバーグへ移動
13日（月）	ピッツバーグ大学（ペンシルバニア州）訪問

- 14日（火）　　ハワイへ移動
15日（水）　　ハワイ大学マノア校（ハワイ州）訪問
16日（木）　　ハワイ発
17日（金）　　日本到着（関西空港）

資料4

原田学長オーストラリア出張日程

- 3月26日　　大阪出発
3月27日　　アーミデール到着
原田学長、モーゼス総長と面談
羽田先生、ミーク教授とオーストラリアの
独立法人化について面談
3月28日　　ニューイングランド大学（ニューサウスウェールズ州）訪問
キャンパスツアー、学生と面談
アーミデール発
メルボルン到着
3月29日　　ラ・トロローベ大学（ビクトリア州）訪問
オズボーン総長と面談
短期交換留学協定書調印式
オズボーン総長、その他大学関係者と昼食会
3月30日　　メルボルン出発
シドニー到着
3月31日　　シドニー出発
大阪到着

留学生センター講演・討論会

金 田 智 子

1999年度の留学生センター主催講演・討論会は2000年の年明け早々、1月7・8日に行われた。大学の組織改革と留学生受け入れの拡大が予想される中で、日本国内における留学生の受け入れ体制をより一層整備し、日本語教育を改善していくためには、日本へ留学してくる人たちの本国における現状を理解する必要がある。そこで、『海外の日本語教育と日本留学』と題し、日本へ留学生を送り出す立場から世界各地で日本語教育に携わっておられる方々に各国の現状や変革の動向について御講演いただいた。

各国の全体的な動向のみならず、現場で実際に日本語を教える経験を通して考察された問題点、日本の留学生施策や教育機関に対する要望などを聞くことができた。同時に、国内の留学生教育関係者から数々の質問や意見が出され、今後の日本語教育、留学生施策、各国と日本との連携などに関して活発な意見交換がなされた。

講演者は8名、出席者は留学生センター研究員、客員研究員、センター教官などを中心に52名であった。研究員・客員研究員制度が昨年度発足しており、今回の講演・討論会は第二回研究員・客員研究員集会を兼ねるものである。

詳細は報告書に譲り、以下にプログラムと参加者名簿を掲載する。

プログラム

広島大学留学生センター主催講演・討論会

(第二回研究員・客員研究員集会)

海外の日本語教育と日本留学

会場：広島大学 学校教育学部大会議室

2000年1月7日(金)

午前部

10:00-10:05 広島大学留学生センター長 挨拶

10:05-10:10 出席者の紹介

司会 長谷川伸次(広島大学留学生センター教授)

10:10-10:40 「留学手続きに関する諸問題」

中国 李若柏（東北師範大学教授）

10：40-11：10 「韓国の日本語教育について—最近の変化を中心に—」

韓国 宋晩翼（大田産業大学副教授）

11：10-11：40 「台湾の大学生の日本留学における問題」

台湾 工藤節子（台湾東海大学講師）

11：40-11：50 セッション質疑

11：50-13：00 昼食休憩

午後の部

司会 浮田三郎（広島大学留学生センター教授）

13：00-13：30 「インドネシアの日本語教育」

インドネシア プリハルヤティ（第17大学日本語科講師）

13：30-14：00 「マレーシアの日本語教育事情—大学留学予備教育機関を中心に—」

マレーシア 登里民子（国際交流基金関西国際センター）

14：00-14：30 「多文化国家オーストラリアにおける日本語教育」

オーストラリア 小川京子（モナシユ大学 Lecturer）

14：30-14：40 セッション質疑

14：40-14：55 休憩

司会 川平博一（琉球大学法文学部教授）

14：55-15：25 「日本語学習に関する全国統一基準

—大学における日本語教育に与える影響—」

アメリカ 角谷明子（アールラム大学教授）

15：25-15：55 「ブラジルの日本語教育と日本留学の問題点」

ブラジル エリザ・アツコ田代（パウリスタ州立大学助教授）

15：55-16：05 セッション質疑

17：00-19：00 懇親会

2000年1月8日（土）

10：00-12：00 全体討論

参加者

[講演者]

李 若 柏 東北師範大学（中国）

宋 晚 翼	大田産業大学 (韓国)
工 藤 節 子	東海大学 (台湾)
プリハルヤティ	第17大学 (インドネシア)
登 里 民 子	国際交流基金関西国際センター
小 川 京 子	モナシユ大学 (オーストラリア)
角 谷 明 子	アーラム大学 (アメリカ)
エリザ・アツコ田代	パウリスタ州立大学 (ブラジル)

[学外出席者]

米 山 道 男	北海道大学留学生センター
佐 藤 勢 紀 子	東北大学留学生センター
石 田 孝 子	群馬大学留学生センター
金 田 章 宏	千葉大学留学生センター
八 木 恵 子	埼玉大学留学生センター
都 河 明 子	東京大学理学系研究科
松 井 信 行	東京外国語大学留学生日本語教育センター
道 脇 綾 子	東京外国語大学留学生日本語教育センター
田 崎 敦 子	東京農工大学留学生センター
小 川 譽 子 美	横浜国立大学留学生センター
保 崎 則 雄	神奈川大学外国語学部
佐 藤 友 則	信州大学留学生センター
脇 田 里 子	福井大学教育地域科学部
鈴 木 洋 子	福井大学
山 田 敏 弘	富山国際大学
峯 正 志	金沢大学留学生センター
藤 原 雅 憲	名古屋大学留学生センター
田 中 京 子	名古屋大学留学生センター
文 野 峯 子	岡崎学園国際短期大学国際文化学科
森 眞 理 子	京都大学留学生センター
難 波 康 治	大阪大学留学生センター
西 川 節 行	プール学院大学
于 康	関西学院大学経済学部
中 西 泰 洋	神戸大学留学生センター
實 平 雅 夫	神戸大学留学生センター

齊 藤 美智子	岡山大学留学生センター
中 園 博 美	島根大学法文学部
ジョージ・R・ハラダ	広島経済大学
廣 中 環	HJLSひろしま日本語学校
八 田 直 美	国際交流基金
奥 村 訓 代	高知大学人文学部
山 本 恭 子	高知大学人文学部
飯 田 史 也	福岡教育大学
田 畑 千 秋	大分大学福祉教育科学部
松 本 久美子	長崎大学留学生センター
川 平 博 一	琉球大学法文学部
大 城 朋 子	沖縄国際大学留学生日本語教育センター

[学内出席者]

迫 田 久美子	広島大学教育学部
栗 田 玲 子	広島大学法学部
橋 本 敬 司	広島大学文学部
金 森 貞 夫	広島大学総合科学部

[広島大学留学生センター]

多和田 眞一郎	浮 田 三 郎	長谷川 伸 次
中 川 正 弘	深 見 兼 孝	玉 岡 賀津雄
堀 田 泰 司	田 村 泰 男	金 田 智 子
石 原 淳 也	阪 田 泰 和	